

和良の郷だより

木 枯 号
12月1日号
和良おこし
協議会発行

和良おこし
協議会

田んぼオーナー制度「収穫祭」 ― 五穀豊穣を祝い感謝する「おもろつき」 ―

11月4日（日曜日）は、「田んぼオーナー制度」、「ファームトラスト制度個人会員・企業会員」で、今年最後のイベントとなる「収穫祭」を行いました。
この日は収穫されたお米「奥美濃清流米」をお持ち帰りいただきます。

会の始めには今年のお米の出来に関して、岩出さんからの総評をいただきました。今年は環境に恵まれた年とは言えませんが、気温が高かったり、豪雨の影響があったり、台風の影響など自然の猛威の中、和良のお米は頑張って美味しく育ってくれたと思います。

この日は雨が降り、前日に比べると若干気温は高かったのですが、すっかり肌寒くなり、みなさん寒さに驚いておられました。

そんな寒さに負けじと大人も子ども達もみなで収穫を祝う「おもろつき」も行いました。嬉しいことに、年々ご参加いただくご家族も増え、それに比例してつくお餅の量も増えていきます。昨年も増やしたのですが、あつという間にペロツと無くなってしまったので、今年はお餅は、あんこや、大根おろし、きなこ、海苔巻きなどで食べましたが「美味しい美味しい！」といったばかりのおかわりをしてもらい、嬉しかったです。やっぱりつくたてのお餅は格別ですよ。

お餅をつききる方は少し疲れましたが、みなさんの笑顔に報われました。

また、お米を車に積み込む際には「来年も開催してくださいね！」や、「来年も参加しますよ。」などお声かけをいただけたことも大変嬉しかったです。

和良のお米は美味しいと、毎年参加いただいている方々と、子ども達に田んぼの体験をさせたいと参加い

ントが悪天候の為に中止となってしまいました。田植えや草取りなどとともに開催してきた田舎料理体験も好評をいただきました。毎年、あれこれ反省する部分もありますが、なんとか皆さんに楽しんでいただけた様子にとスタッフ一同努めてきました。まだまだやりたい事、改善する事、野望もあります。どうか今後の進展にもご期待いただきたいと思います。

ただいたご家族など一年を通じて楽しく学んだり、体験をしていただきました。今年は生憎と一番人気である稲刈りイベントが中止となってしまいました。



空き家の情報をお寄せください ― すくすく暮らし続けられる和良町を目指して ―

和良おこし協議会では、持続する町づくりの一環として移住促進を進めています。

郡上市や和良町へは、現在も移住希望者から多くの問合せやご相談がありますが、ご紹介できる空き家が大変少ない現状となっております。その一方で和良町内では空き家が増えています。維持管理ができない空き家は、数年で住めなくなり、防犯上も危険ですが、空き家に住む人があれば家の管理ができます。

移住者を受け入れてくれる地域は、人が人を呼んで人口も増える傾向にあるようです。地域住民と良い関係ができれば、住み続けることができます。ので、集落の維持や活性化につながっていきます。

移住者の方にご紹介できる空き家の情報をお持ちの方や、まずは仕組みについてじっくり話が聞いてみたいという方がありましたら、お気軽にご相談をお寄せ下さい。

どうか、ご協力のほどよろしくお願いいたします。



所有者



① 情報提供・現地調査



② 情報公開・情報提供



移住希望者



③ 和良おこし協議会などの立会にて、賃貸契約

【問合せ】和良おこし協議会

担当：加藤

☎ 0575(77)227

「和良の郷だより」 加藤真司

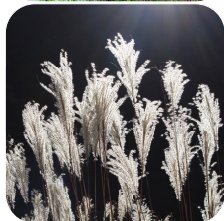
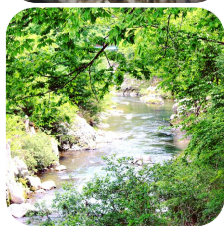
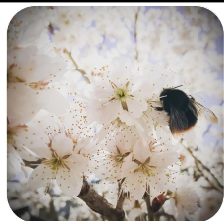
岐阜新聞【素描】連載より抜粋

郡上市和良町を知っていますか？少し前だと、「下呂温泉に行く時に通った事があります」とか、「郡上に行くときに通った事があります」と言った答えが返ってくる事が多くありました。気にかけていなかったりすると、あつという間に通り返してしまふような所です。同市の八幡町や明宝、下呂市に隣接し、八幡町と下呂へは、それぞれ車で30分程です。

和良町は2004（平成16）年に町村合併するまでは郡上郡和良村でした。1894（明治27）年に誕生してから115年、約96%を山林に囲まれ、中心部を流れる和良川とその支流に沿って田んぼが広がり、集落が点在する単独村として、先人から歴史と文化・伝統を受け継いできました。

現在の和良町の人口は約1750人。ピーク時の1948年の人口4235人に比べて約60%の減少です。合併直後の2319人と比べても、この10年ほどで25%の人口が減少したことになります。和良で生まれ育ち、高校を卒業して、進学や就職などで地元を離れる若者がたくさんいます。地元には産業が限られるため、多くは近隣の町に勤めに出ています。そういう私も高校を卒業して夢を追いかけて、都心部に出て約20年間を過ごしました。

農山村の人口減少、少子高齢化、農林業の衰退、雇用の場の減少、公共交通機関の不便さ、結婚難などのデータを基に、消滅可能性の危機感をあおられ、過疎地域とか限界集落とかに定義されています。例えば話でも、そんな簡単に古里を無くされては困ります。今、和良は元気です。いいあんばいの田舎です。そんな和良町の暮らしを紹介させていただきます。



外に出て和良町の暮らしを伝える

10月～11月・3つのイベントに参加！

「東京国際映画祭」

東京国際映画祭は、日本で唯一、国際映画製作者連盟公認の映画祭であり、六本木ヒルズを中心に映画を核とした各イベントが実施されます。大人から子どもまでが楽しめるワークショップやセミナー、シンポジウムなどが開催され、フォーラムやマーケットとの連動を意識した参加交流型フェスティバルです。

10日間の期間中、郡上市は「郡上藩江戸蔵屋敷」事業の一環として味覚でも郡上を知ってもらえるような企画を行いました。

10月30日（火曜日）は、いいあんばいの田舎「和良町」の暮らしを紹介しようと和良町に移住してパン屋さんを開業された「いそばん」さんのパンを数量限定で販売すると共に、移住相談窓口の開設も行いました。

「町家オイデナーレ2018」

郡上八幡の「かつて」と「いま」と「あした」が不思議に混ざる町家フェス。町家を巡るツアーをはじめ、郡上八幡で活動される団体や個人はもちろん、郡上市全域からいまを暮らし、あしたを見据える人たちが多く参加される町家オイデナーレに参加させていただきました。

和良おこし協議会は、10日（土曜日）は「越前屋」さん、11日（日曜日）は「町家玄麟」さんにて和良町の暮らしを紹介するブースを設置させていただきました。八幡での出店ははじめてとなる「いそばん」さんは大盛況にて両日とも早々に完売となりました。

いそばんさんの「御塩ばん（ごえんばん）」には、和良から小豆島に移住して塩づくりをされている「波花堂」の「御塩」が使われています。そうやって多くの方と「御縁」をいただながら和良の元氣はますます増えていく事と思います。

ブースには多くの方に訪れていただき「最近の和良いいね！」などとお声がけいただき、とても嬉しくなりました。和良町はどんどん元氣になって行きます。

「郡上目利きの旅商い」

11月17日（土曜日）は、郡上市

の地域おこし協力隊を中心に企画されたイベントが岐阜市にあるアクティブGふれあい広場にて開催されました。会場には目利きによって選り抜かれた、郡の特産、名産、体験が所狭しと展開され、白鳥踊りのステージや鼻笛演奏、アウトドア講座も開催されました。

和良町からは、いそばんさん特製のオオサンショウウオをモチーフにした「はざこばん」や「御塩ばん」、道の駅和良ちんちろ屋さんの「長寿だんご」や「寿豆」、和良鮎を守る会特製「和良鮎の一夜干し」など、普段は和良町でしかお求めいただけないものを盛りだくさんお持ちして、多くの方にお求め頂いたりお話しをして、和良町の魅力や暮らしを知っていただくことが出来ました。

郡上全域から集まった品々に足を止めてみていただきありがとうございます。



和良町の人口

平成30年11月1日現在

人口

1,682人

男性

819人

女性

863人

世帯数

656世帯